

キャラクター名	プレイヤー名
クロ・フォン・エイミヤ	

メインクラス	ウォーリア	Lv.1:		レベル	9
サポートクラス	アルケミスト	Lv.1:	アルケミスト	性別	女性
称号クラス				年齢	14歳
種族	ヒューリン			境遇	記憶喪失
出自(効果)	一般人			目標	復讐

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	23	23	17	8	15	8	9
ボーナス	7	7	5	2	5	2	3
クラス修正	1	2	1	1	1	0	0
他修正	2	2	2	2	2	2	2
能力値	10	11	8	5	8	4	5

HP	111
MP	63
フェイト	4

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	ボーンシールド		0	0	0	8	0	-2	0
左手									
頭部	闘士のバンダナ		1			3			-1
胴部	テーゲベックの鎧				-1	9			-1
補助	俊足のブーツ				1	3		1	
装身具									
能力値			11	0	8	0	4	16	15
スキル									
その他	ギルドサポート：高機動部隊							5	
総計(右)			12	0					
総計(左)			12	0	8	23	4	20	13
総計(両)									m
ダイス数			3 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	8			8	+ 3 d
トラップ解除	11			11	+ 2 d
危険感知	8			8	+ 3 d
エネミー識別	5			5	+ 2 d
アイテム鑑定	5			5	+ 2 d
魔術判定					+ d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
冒険者セット	万能薬×1
異次元バック	結界紋×2
ドレスブック	
転送石×1	
調理用具	
ポーションホルダー	
ハイHPポーション×4	
ハイMPポーション×5	
EXHPポーション×3	
EXMPポーション×1	
アンチポーション×1	

現在重量：	27	所持金：	2150	預金・借金：	
最大重量：	38				

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
オールラウンド	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果： キャラ作成時に任意の3つの能力基本値+1								
バッシュ	5	4	メジャー	武器	単体	命中	5	
効果： 武器攻撃を行う。ダメージロールに+[SLd]								
スラッシュブロー	3	3	ダメージ直前	-	自身	自動成功	3	
効果： 武器ダメージに+SL×2d								
ボルテクスアタック	1	-	効果参照	-	自身	自動成功	1	
効果： 武器攻撃と同時使用、対象：単体へ変更しダメージに+CL×10								
ウェポンクリエイト	5	7	マイナー	-	自身	自動成功	5	
効果： 短剣、長剣、斧、打撃、槍、鞭、刀を一つ作成、レベル1、重量0、命中±0、攻撃力+器用+SL×2、行動修正±0、至近、片手								
アーマーフォージ	5	6	メジャー	-	自身	錬金術	5	
効果： 物理・魔法防御のどちらかを+SLd								
クイッククリエイト	1	5	セットアップ	-	自身	自動成功	3	
効果： ウェポンクリエイトと同時使用。1シーンSL回								
クイックフォージ	1	3	セットアップ	-	自身	自動成功	3	
効果： フォージと同時使用。1シーンにSL回								
アームズマスタリー：錬金術	1	-	パッシヴ	-	自身	-	1	
効果： 錬金術武器の命中+1d								
ウェポンフォージ	2	8	メジャー	-	自身	錬金術	5	
効果： 武器ダメージに+SLd、シーン終了まで								
エリクサー	1	-	パッシヴ	-	自身	-	1	
効果： ポーション効果に+1d								
インビジブルアタック	1	3	マイナー	-	自身	自動成功	1	
効果： 白兵命中に+1d、メイプル終了まで								
アイアンクラッド	3	3	ダメージ直前	-	自身	自動成功	5	
効果： 物理ダメージに-SL×3								
シンセサイゼーション	1	5	ムーブ	-	自身	自動成功	1	
効果： 1アクションでポーションを2個使用可、メイプル終了まで								
オルタナティブウェポン	1	4	マイナー	-	自身	自動成功	1	
効果： 武器ダメージを無属性魔法ダメージに、メイプル終了まで								

幸せだった日々を、焔は焼き尽くしてしまった。

赤。ひたすらの赤。
 赤が、全てを書き換えていく。
 死へと。生ける者を呑み込み、舐り、溶かしてゆく。
 屍山血河の中で、クロの意識は朦朧としていた。
 何故、生きているのだろう。何故、生きようとしているのだろう。何故、目を開き、立ち上がろうと力を込めているのだろう。
 俯せた少女は、最早情性的に顔を持ち上げる。

——そこには、仮面を被った男がいた。

剣を手に、焔に照らし出されながら、彼は——誰かを——。
 そこまでが、彼女の記憶。
 気が付けばクロは、見覚えのない天井を見上げていた。起き上がりつつも、何も知り知るころではない。
 どうしてこんなところにいるのか。村はどうなったのか。父は。母は。
 いや、そも——私の視線は、こんなに高かったのだろうか……？
 不意に扉が開かれ、警戒すると、そこには一人の少年がいた。
 赤毛の、朴訥とした顔。その顔には、覚えがあった。
 兄だ。背が高くなり、変声期を迎えていても、その呼びかける声は確かに兄だった。
 ようやく記憶に符合する人物の登場に、クロは安堵と同時に、混乱をそのままぐちまけた。
 自分でも分かるほどの支離滅裂な説明に、きっと幻滅されたことだろう。
 だが、兄はやはり優しい兄のままだった。

